

---

# **I S さんの世界にMS ( I S 大 ) で突っ込みたい**

grind

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ISさんの世界にMS（IS大）で突っ込みたい

### 【Nコード】

N6321Z

### 【作者名】

grind

### 【あらすじ】

浪漫ある機体は素晴らしい。そんなコンセプトで動く主人公が、テンプレでチート頭脳と“ヴェーダ”を貰ってあれこれする話。筆者がド初心者&amp;頭空っぽにして書いてますので、読んでくださる皆様も頭空っぽにして読んでくれれば幸いです。みんなが幸せになれます。万死に値する！……では、どうぞ。

## 0話 テンプレって大事

突然だが、みんなはロボット系アニメの浪漫と聞いて何を思い浮かべる？

たとえばドリルだ。そう、ドリルだ。大切なことなので二回言った。あしからず。

というよりドリルはもうすべてにおいて浪漫だな。ロボット業界だけで独占するのがもったいないくらいの浪漫だ。

あとは……そうだな、ロケットパンチなんかも浪漫だろ？

何時だったか、必死になってロケットパンチの実用性を語ってる雑誌があった気がするが、別に見てる側は誰もロケットパンチに実用性なんて求めてないよな。浪漫だもん。

他には別に武装じゃなくてもロボットには浪漫がてんこ盛りだ。

たとえば、知ってる人は知ってる鉄。あれは操縦桿が棒一本なんだけ？信じられるかよ。

……だが、そういうところがたまらなく浪漫だ。

そして、みんなにも大好きな浪漫機体があると思うんだ。

だけれど、俺には譲れない浪漫がある。

それは、砲戦仕様の重装備な機体たちだ。

それはヘビーームズであつたりレパルド、バスタなんかもうだ。え？ガンダばかり？みんな知ってそうなの挙げたんだよ。あいつら一発でも被弾したら勝手に自滅しそうなのに、『グウレイトオ！』とかいいながら最前線出張ってるんだぜ？

……浪漫じゃないか。

そんな砲戦フェチの俺の目に、数年前のアニメの機体で俺の心の中をど真ん中ストライクな奴がいた。

ガンダムOに出演していた『GN-005ガンダムヴァーチェ』さん、もしくはその後継機の皆さんだ。

いやね、惚れたね。一目惚れだったよ。

あの無意味そうな重装甲にめろめろだったさ。それに必死に理由付けしようとする製作者たちも大好きだ。

もちろんプラモも買ったし（種類が少なくて泣いた。砲戦フェチ友と泣いた）、アニメも最後まで見た。

変態ハム仮面が良い味出してたなあ……。

で、ここまでで俺が何を言いたいのかといいますと。

転生、しました。

ここで『おいふざげんな説明しろww』とか思ったみんな、勘弁してくれ。俺も混乱してるんだ。

混乱しすぎて俺の浪漫を神様にかたうちまんっただ。

……分かるかい？神様に俺の個人的な趣味を目を血走らせて喋り捲ったんだぞ？

神様、引いてました。いえーい。俺ってば神様を引かせるほどの……なんだろう、変態？

やべえ、自分で言ってる落ち込んできた……。

で、本当だったら天国的なところに送ってくれるっていう話だったんだけど、俺がそんなにも熱弁したもんだからいわゆる『オリ主』として、転生させて貰える様になったんだ。

はい、ここまでテンプレ。

この言葉を最初に書けばここまでの前置きいらなかった気がするよ。気のせいだよね？

まあ、こんな汚い地の文をここまで読んでくれたってことは相当訓

練された猛者（変態）なんだろうな。たぶん。

まあそれはさておき、転生したわけですよ。

で、ロボット系の世界となると選択肢は限られてくる。んで、砲戦系の機体が輝けるのはリアル系の世界だけな。これ常識。

まあ、全身核ミサイルまみれのあの人以上だが。

で、そこで神様がルーレット（！？）で決めた俺の転生先が、『I S インフィニットストラトス』の世界でした、ってわけ。

あそこはまあ、色々制限が多いから、色々つけてもらった。

まず、チート頭脳。あと、OO劇中に出てきた量子型演算処理システム“ヴェーダ”まで付けてもらった。

まあ、その代わり、“ヴェーダ”のほかに『実物』はもらえなかった。GNドライブなしでどないせいちゅーねん。

いや、どないするっていうかもう、……造るしかないって訳だ。

つまり、転生してからの当面の目標は、GNドライブとISサイズのうちせえMSの作成。この2点ってことになる。

おいおい、ISの世界なのにISつくらねえのかよ……。って思ったみんな、ごめんな。TV版のも原作のも一番近そうなのが全身装甲の銀の福音さんんだけど……。

圧倒的に、浪漫が足りない。

いやね、別に貶してるわけじゃないのよ？だから原作ファンさん石投げないでって。頼むから。

俺から見ても白式やブルーティアーズはカッコいいと思う。

乗ってるのが（約一名除き）みんな可愛い女の子ってもグーだ。

でも、あのかっこいい感じじゃなくて、なんていえばいいんだろ？うーん、むせる。……違うな、くそボキャブラリーの無さがここで出るとは……。

とりあえずヴァーチェさんみたいなゴツツイ奴を作って学園に潜り込みたかったんだ。

それから世界を引つ掻き回す東さんにも興味あるしね。

それじゃあ、行こうか。

2話。天才と天災の邂逅、その序章。（前書き）

頭空っぽにしてみてくださいな！。



## 2話。天才と天災の邂逅、その序章。

……なんて、かつこつけてごめんなさい。

そしてプロローグで名前出さなくてごめんなさい。

プロローグで変な語りかましてごめんなさい。

生きててごめんなさい。

……うん、ちょっと卑屈になってきたから思考を戻そう。

俺の名前は柏木栄。うん、普通な名前だ。普通って素晴らしい。世界は普通で成り立ってるからね。

そして、今の俺はぴっちぴちの小学一年生。……自分でいって死にたくなってきた。

そして、テンプレ的に一夏君たちと一緒にクラス。うん、ここもテンプレ。

でもさ、一つ気になることがあるんだ。

俺だって原作キャラってのはある意味偶像崇拜的なのを抱いてるから喋れるのはうれしい。それはいい。

でも、俺が死ぬ前のSSは主に2種類に分かれてたんだ。

一つは今までと何も変わらないオリ主の痛快チート進撃。みてて気

持ちいい。

二つ目はオリ主の周りにやたらと原作キャラに絡みたがるオリ主が出てくるやつ。

この二つ目のオリー主君は、本来主人公が背負うべきだったはずの疑問や面倒ごとを一手に引き受けるウザイ奴だ。

つまりなにが言いたいのかというと、ここでしたかして一夏たちに話しかけたら後々取り返しが付かないことになりそう、ってこと。

幸い俺はオリー主君たちのように金髪銀髪でもオッドアイでもない。

普通に過ごせばなんの問題もないはずだ。

……なんだ、ならこんなこと、考える必要も無かったじゃないか。

なんて思っていた時期が、俺にもありました。

「おーい、えいー、早くこっちこいよー」

「そうだぞ、はやくこないとおいていくぞー！」

原作キャラのほうから寄ってきた場合は、どうすればいいんでしょうか。

うん、やっぱり俺って考えなしだね。

チート頭脳のお陰で、GNDライブの理論はすっかり頭に入ってたんだけど、それを形にするとなるとまた別の話だった。

だから、親のお下がりのノートPC（数世代前のやつ）を借りて、とりあえずデジタル化しようと思ってたんだが、一つ問題があった。量が半端ないんです……。

そう、たとえるならば誰もが一度は通ったであろう夏休みの宿題の単純作業。くを30回ずつ写しなさい。とか。

新しいものを考えるよりも、俺にとってはむしろそっちのほうが辛い。てか終わらん。

そして、原作束さんの真似もしてみたくなった俺は小学校にPCを持ち込んだわけですよ。宿題は授業中に遣るのが一番！

流石に中学校じゃあるまいし、まだそんな校則的なものないみたいで、先生も大いに困っていました。

何度が注意されたんだけど、校則と言うゼツタイのルールがこっちの味方な上、別に授業中までカタカタ遣ってるわけでもないので逃げ切れました。

逃げ切れたんだけど……。

クラスで孤立しました、はい。

まあ、少し考えれば分かることだよね。ていうか俺ちょっと前に世界は普通で成り立ってるとか中二くさいこといつてるじゃん。

で、一夏くんはこの世界でも大変正義感の強いお方のように、積極

的に僕に声をかけてきてくれたわけですよ。

前世含めて三十路のおっさんが、涙しそうになりました。やっぱり肉体に精神が以下略。

同じようにスーパーフラグビルダー一夏さんは、もうすっかり箒さんとも仲良くなってみたいです。原作だともうちよつと後な気がするんだけどなあ……。

「わかったー、いまいくよー」

これで放課後。今日は箒さんが家に誘ってくれた日。でもノートPCを手放さない俺。クウキヨメ。

まあ、別に家に帰るのが面倒くさいだけだし、使わないからいいよね。

なんて思ってる時期が、俺にも……ってこの流れ二回目だ。自重しよう。

うん、なんかね、箒さんちに遊びにいったんだけど、どうやらそこに東さんと千冬さんの年長コンビもいたみたいで、そこで今遊んでいます。

え？なんで、加わらないのかって？

おーいえ、君たち忘れたのかね？東さんはいっぱんぴーぽーにはまるでGでも見るかのような視線だけくれて無視するんですよ？そして、俺はMではない。ここ重要。

という訳で、体調が悪いとか適当に言い分けつけて家の中にこもって理論組みしてます。

これでやっと、GNドライブの基礎が組み終わった頃。急がないと原作に間に合わないぜ。

ちょっとスピードアップしますかねえ……。

ところ変わって一夏たち。

「ふははあ！束さんにそんな幼稚な手が通じるとでもおー！」

「もう束姉以外は全員団結してるもん！これで負けたら嘘だ！」

どうやらボードゲームに興じているようで、わいわいと愉しそうな声が聞こえてくる。

「ふふふ、甘いねいっくん！もう束さんはどれだけの力をこめれば何週ルーレットが回るか位、把握済みなのさ！」

「き、汚い！さすが束姉汚い！」

「褒めよ褒めよー！ほほーい」

というよりは、束の蹂躞劇の終幕のようだ。

「はあ、こういうゲームで手加減してない束に勝てたことが無いな……」

ゲームも終わり、ひと段落ついて皆でお茶とお菓子を食べていると、ぽつりと千冬がそんなことを漏らした。

「うーん、束さんは天才だからね！」

「納得できてしまう自分が恐ろしいな……」

遊びにそこまでしてしまうところも、十二分に恐ろしい筈なのだが……。

「そういえば栄君は？」

そんなとき、一夏が栄のことを千冬に尋ねた。

「こっちに着てないってことはまだ調子が悪いんじゃないのか？」

「うーん、そうなんだけど……」

どうやら一夏は何か疑問に思っているらしい。

「うーん？どうしたの？束さんてきにはあんなコミクスどうでもいいんだけど」

「ゴミクズってお前な……」

千冬があきれろとたしなめろの成分比の視線を束へと向ける。

「またばそこにいじってそうだよね？」

「うん……そう思う」

と、その隣で一夏と筈が栄のことをかんぐっていた。

「んー？あのゴミクズはPCなんてませた物使ってるのかい？」

束が不思議そうに顔を傾ける。確かにこの年齢でPCを弄り回すというのは少々奇異だ。栄もそれが原因でクラスで孤立することになったのだから。

「うん、えつとね、いつつも『いそげりろんだて！』とかよく分からないこといってばそこにいじってるよ？」

「……ふーん」

「おい、束、何処へいく？」

「ちょっと、そこまでー。束さんはフリーダムなのさ！」

そいつって束は席を立ち、栄がいるであろう部屋へと入っていく。

天才（天災）と天才（馬鹿）の邂逅であった。

## 2話。天才と天災の邂逅、その序章。（後書き）

とりあえずここまで！。長いか短いかも分かってません。  
……長いことはありませんねすいません。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6321z/>

---

ISさんの世界にMS（IS大）で突っ込みたい

2011年12月21日12時50分発行